

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390200014
法人名	有限会社のぞみ
事業所名	グループホーム八代のぞみ
訪問調査日	平成19年11月15日
評価確定日	平成19年12月15日
評価機関名	NPOまい

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で つけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	4390200014
法人名	有限会社のみ
事業所名	グループホーム八代のみ
所在地 (電話番号)	〒869-4704 熊本県八代市千丁町古閑出421-16 (電話) 0965-46-1180
評価機関名	NPOまい
所在地	熊本県熊本市馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	平成19年11月15日

【情報提供票より】(19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人 非常勤 2人 常勤換算 4.5

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	14,400円
敷金	有() 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	260円	昼食 370円
	夕食	370円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城循環器内科医院 上野歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地の中に開放的な施設を有しており、個々の部屋の窓は全て庭に面しており、開き戸があり、設備上安全性の配慮が工夫が見られる。地元の職員で家庭的で明るい日差しの中穏やかな空気が流れている。入居者一人一人の生きがいや介護方法等、事業所として地域との日々の連携を共有し積極的にされることが今後の課題

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) これまでの振り返りや、また、全職員での意見交換、評価した結果が、介護支援専門員と現場職員の評価の違いが明確になったのが今後の課題である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 開設者、管理者が地元であるため、2ヶ月に1回の開催、地域の民生委員、市町村等との連携もスムーズにできている。敬老会へは招待参加している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年2回家族会で意見交換はできているが、苦情等の書類はない、施設、入居者のお便り新聞は今後取り組みたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の夏祭りに参加した。まだ1年目で事業所の企画に地域の人々が参加されるとか、お茶のみに気楽に立ち寄られる環境作りは今後の課題である。

評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で、安心と尊厳を守るため、事故がないように話し合いの結果理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示することで理念の共有をし、それを随時みるように管理者から指示されている、また、事例検討会や、月1回のミーティングで具体的に掘り下げるようにされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	八代市が地域だが、行事参加等は「千丁」という地元を区域としている。利用者の住所は自宅としているが、老人会、自治会活動への参加はない。施設としての自治会活動はされている。学校関係は小学校の御輿がきたこともあるが、まだ始まったばかり。地域の夏祭りに見学参加する		今後積極的に地域へとけこみ地域と一本化された施設への取り組みをすすめる
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	業務改善に役立てていきたい、ケアマネと現場の職員間の評価とのずれがあるので、評価ですり合わせていきたいといった思いがある。		方向性を同じになるように上司とも一緒に考え、取り組んでいきたいといった管理者の前向きの思いを尊重したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われている。内容としては2ヶ月の行事予定や報告等がされている。また、運営推進会議で働きかけ利用者の地区ではない敬老会への参加ができるようになり参加された利用者がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長、管理者が地元でもあり市町村職員や、民生委員等様々な形で連携が取れている。近くに公民館があり地元はそこを利用することが多いため、事業所を提供することはない。		道路に面し庭や畑があり、地域の活動や憩いの場になり、地元と一体となることが大切です。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話にて随時報告され、年2回の家族会が開催されている。半年に1回預かり金報告がなされている。日頃の写真がアルバムという形で残されており、面会時に家族等にみてもらっている。		今後、のぞみ便り等の企画があるとのことですが、これらを通じて更なるコミュニケーションが深まることが重要です。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見交換が行われている。苦情相談窓口は設置しているが、苦情処理の書類はない、あった苦情等は介護支援経過記録に残されているが、書式はない。		「苦情は顧客満足への宝物」です。苦情を積極的に吸い上げ、改善に向けた活動が必要です。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から1年、半年間に4人の退職者があったが、慣れるまではマンツーマンで対応されている。また、夜勤は慣れた職員がしばらくは一緒につくよう配慮され、利用者がパニックにならないよう留意されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育計画、教育・研修システムはない。月1回勉強会が行われている。グループホーム関係の新聞記事等がスクラップされ閲覧されている。		今後勉強会・研修会等のシステム構築に取り組んでいきたいと管理者の思いを実行されることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流はあり、居宅介護支援事業所へのサマリー等の情報提供もされている。		職員と他のグループホーム等への見学を通じて交流を図りたいといった計画を実現にしましょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所前に見学され雰囲気等をみてもらったあとでの入居となっている。また、開設前から入居することを楽しみにされていた利用者もおられた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	畑仕事や、洗濯物たたみ、調理等を通じて利用者との人間関係を大切にしながら過ごされていることがうかがえる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの面談の中でその人の意向を取り入れるよう努力されており、それを職員間で共有するようにされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	職員間で共有してケアプランを立てている。		関係者とそれぞれの意見を聞く場を更に多く持つことにより、よりよい利用者本位のケアプランが可能となります。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	状態変化時は随時、更新時、短期目標を3ヶ月としてその時々に応じて見直しが行われている。		ケアマネ一人で見直しが行われ、現場スタッフの意見を聞く機会が少ないため、必要な関係者とのコミュニケーションの場を設けて下さい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族へは外出・外泊の声かけがおこなわれ、介護方法等を指導する機会もあるが、多目的な事業所の活用はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や専門医との連携がなされている。職員が受診介助を行うときは結果を家族へ連絡している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の中に看護師がおり医療連携加算をとっている。今まで終末期の経験はない		終末期のあり方等今後の課題として取り組んで下さい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ等の窓ガラスは中から外は見えるが、外から中が見えないように特殊ガラスが使用されている。プライバシー保護等に関する職員教育はあっていない。		職員へのプライバシー教育等今後の研修カリキュラムより実施して下さい
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	嗜好品等家族からのストップや病状的に禁止されていない限りはOK、生活のリズムも本人のペースを基本に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と利用者が一緒に食べるようにしている。準備や後かたづけ一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴、個浴。入浴を嫌われていた利用者が精神科医師の薬の調節でOKとなった経緯はあるが、入浴嫌いで困ったという人は今までいなかった。夜間入浴は殆どない。		日中の生活リズム、活動を支援する為にも午後から入浴時間の検討も必要となります。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	室内の飾りや、庭の花植等自宅で行っていた楽しみが継続できるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	随時対応で散歩、買い物支援が行われている。一人に対して週2～3回の散歩・買い物支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締まりのための玄関鍵かけはあるが、日中玄関の施錠はなく個室の鍵はない。徘徊で外に出られるときは一緒に利用者の気が済むまで歩かれている。		
		災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量の確認は毎食後行われ、定期的に水分摂取が促されている。水分摂取チェック量はないが、水分不足等必要な方には日誌にて注意が促されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレは4カ所あり、窓はあるが、外から見えない配慮がされている。玄関周りもきれいに整頓され、共用空間もすっきりとまとめられ清潔感がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンス等持参されたり、室内を好みの装飾品や写真を飾ったり等個々により配慮されている。</p>		